

平成25年度(2013年度)

事業報告書

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝2500

目 次

【事業報告】

I. 事業の概況	1
II. 事業別の状況	
(公1) 助成金事業	
・スポーツチャレンジ研究助成 ・スポーツチャレンジ体験助成	1
(公2) 奨学金事業 (国際スポーツ奨学金)	
・海外留学生奨学金 ・外国人留学生奨学金	2
(公3) 表彰事業	
・スポーツチャレンジ賞 表彰	2
(公4) 青少年健全育成事業	
・YMFSジュニアヨットスクール葉山	3
・全国児童 水辺の風景画コンテスト	4
(公5) 普及・振興事業	
・スポーツ教材の提供	4
(公6) 調査研究・教材製作・競技会等運営事業	
・調査研究への取り組み	5
・YMFSスポーツ討論会の開催	6
・YMFS「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」の開催	7
(公7) 普及広報事業	
・ホームページの充実と刊行物「Do the Challenge」等の発行	7

【事務報告】

・平成25年度 理事会、定時評議員会	9
・評議員、理事、監事	10

【参 考】

・別紙(1) 平成25・26年度(第7・8期)助成対象者	11
・別紙(2) 平成25・26年度(第7・8期)国際スポーツ奨学金対象者.....	15
・別紙(3) 第25回 全国児童 水辺の風景画コンテスト 入賞者	16
・別紙(4) スポーツ教材の提供先団体	18
・別紙(5) 第22回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖 大会概要	22

【事業報告】

I. 事業の概況

平成25年度の日本のスポーツ界の大きな動きを振り返りますと、昨年9月IOC総会での2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、スポーツ界をはじめ、日本全体にとっての新たな、そして大きな目標ができました。来たる2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催を通じて、次世代につながる有形無形のレガシーを残し、スポーツの価値や被災地の復興を含め、日本の活力を世界に大きく発信する機会になることを願っています。

また、我が国のスポーツ推進の基本方針である「スポーツ基本計画」に沿って、平成26年度から健常者と障がい者の競技スポーツが文部科学省に一元化されたこと、そしてスポーツ庁構想実現に向けた活発な論議など、今後、競技力向上をはじめ、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出に向け、さまざまな環境整備が着実に進められていくことを期待しています。微力ながら当財団もその一端を担っていきたいという思いを新たにしています。

スポーツの推進を取り巻くこうした社会情勢の中で、当財団の平成25年度の事業は、「新たな価値づくり（社会的価値）」と「事業の質向上」を基調とした中期事業方針2年目の活動を展開しました。関係各位のご協力のもと、当財団の特徴を活かしながら社会ニーズを踏まえた諸施策の見直しや円滑な運営を進め、各事業分野とも概ね当初計画通りに進捗致しました。

個別事業としてのスポーツチャレンジ助成事業では、第7期となる助成対象者および奨学生に対する中間報告・成果報告会、異分野交流など多くの審査委員のご協力のもとに、YMF S独自のフォローアップを実施しました。スポーツ振興支援事業では、ジュニアヨットスクール葉山の運営、被災地を含む全国小学校等へのスポーツ教材の提供、また、全国児童水辺の風景画コンテストにおいては事業趣旨の着実な浸透により参加者拡大が図られたこと。スポーツ文化・啓発事業では、長年スポーツ振興に大きく貢献された「縁の下の力持ち」を称えるスポーツチャレンジ賞において、受賞者の功績をより広く社会に発信する機会と位置づけ、表彰式を東京会場に移し、また、2年目の活動となった調査研究では「我が国のパラリンピアンを取り巻くスポーツ環境調査として、競技者、指導者、競技団体の置かれた厳しい現状を知る貴重な情報収集ができたことなど、次年度につながる一定の成果を上げることができたと考えています。

設立後8年目を迎える平成26年度も、公益法人という枠組みの中での民間らしさ、「YMF Sらしさ」を大切にし、「新たな価値づくり（社会的価値）」とさらなる「事業の質向上」にチャレンジしていきたいと考えています。

II. 事業別の状況

(公1) 助成金事業（スポーツチャレンジ研究助成・スポーツチャレンジ体験助成事業）

スポーツにかかわる学問研究活動に対し助成する「スポーツチャレンジ研究助成」および競技力向上、体験等を目的とした取り組みに対し助成する「スポーツチャレンジ体験助成」を実施しています。

○今年度は、第7期助成対象者として体験助成11件、研究助成13件、計24件に助成しました。

○第7期生は、期中における四半期毎の報告書の提出と中間報告会への参加。また、1年間のチャレンジ

成果を発表する成果報告会に参加しました。中間報告会は9月から10月に計5回開催し、成果報告会および修了式は、平成26年3月14日から16日(3日間)に開催した第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行いました。

- 7月には、第7期生の中から、ブルガリア・ソフィアで開催された第22回夏季デフリンピック(聴覚障害者国際総合スポーツ競技大会)に出場した3名の激励会を開催し、特別チャレンジャー賞を贈呈するとともに、本年3月にはソチ2014オリンピック冬季競技大会出場など顕著な実績を上げた体験助成対象者(O・G)2名に特別チャレンジャー賞を贈呈し、その功績を称えました。
- 第8期助成対象者の募集は、9月2日から11月18日まで行い、基本助成では、体験44件、研究54件の応募の中から、平成26年1月20日および21日の最終審査を経て、体験助成11件、研究助成12件を決定するとともに、導入から2年目を迎えた継続助成では、体験4件、研究2件の中から最終審査を経て、体験助成3件、研究助成2件を決定し、助成金の贈呈式を、第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング初日(3月14日)に行いました。
- 助成対象者の挑戦(チャレンジ)やその人間的な成長をも支援することを目的に、中間報告会や成果報告会を開催しました。報告会では異分野交流による相互刺激の機会や、「語り」「学び」「考える」をコンセプトとした基調講演、スポーツ討論会、特別講演会の開催など、参加者にとってのさまざまな気づきの機会を提供してきました。この様子はスポーツにかかわる人たちの取り組みの参考情報として、また、スポーツへの理解促進を図るため、ホームページ等を通じて広く社会に情報発信してきました。

※ 参考 別紙(1) 平成25・26年度(第7・第8期)助成対象者

(公2) 奨学金事業 (海外留学生奨学金・外国人留学生奨学金 給与事業)

スポーツにかかわる学問研究を目的とした留学生に奨学金を給与する「海外留学生奨学金」および「外国人留学生奨学金」を国際スポーツ奨学金として実施しています。

- 今年度は、第6期海外留学生2名、外国人留学生2名、および第7期として海外留学生1名、外国人留学生1名に奨学金を給与しました。
- 奨学生は、期中における四半期毎の報告書の提出と中間報告会への参加。また、1年間のチャレンジ成果を発表する成果報告会に参加しました。成果報告会および修了式は、平成26年3月14日から16日(3日間)に開催した第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行いました。
- 第8期奨学生の募集は、9月2日から11月18日まで行い、海外留学生6名、外国人留学生10名の応募の中から、平成26年1月20日および21日の最終審査を経て、海外留学生1名、外国人留学生3名を決定し、奨学金の贈呈式を、第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング初日(3月14日)に行いました。

※ 参考 別紙(2) 平成25・26年度(第7・8期)国際スポーツ奨学金対象者

(公3) 表彰事業 (スポーツチャレンジ賞 表彰)

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するもので、受賞者のたゆまぬ努力と

成果に敬意を表するものです。技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるのに相応しい功績をあげられ、かつこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットライトをあてています。本賞ではチャレンジスピリットあふれる受賞者のプロセスやその実像を通して、挑戦(チャレンジ)することの尊さ、大切さや努力は報われることが社会に浸透していくことを願っています。

○第5回は、平成25年2月に以下の表彰対象者を決定後、平成25年4月9日東京会館にて受賞者、推薦者、応援者、報道機関、審査委員、理事等関係者約75名出席の下に表彰式を開催しました。

(功労賞) 樋口 豊さん(フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者)

「国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの開国に貢献」

(奨励賞) 江黒 直樹さん(ゴールボール女子日本代表チームヘッドコーチ)

「楽しいリハビリスポーツの普及をめざした日本女子ゴールボールチーム金メダルへの挑戦」

○第6回は、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障害者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会の後援のもと、9月20日から11月18日において推薦募集を行い、競技団体、大学、報道機関等から13件の候補者推薦を受け、当財団に設置した有識者・専門家による選考委員会(2回)を経て、功労賞1名、奨励賞1団体を決定しました。

(功労賞) 臼井 二美男さん 義肢研究員、義肢装具士

「スポーツ義足の第一人者として走る喜びを提供する挑戦」

(奨励賞) 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部

鈴木 徳昭さん、高谷 正哲さん 他8名

「戦略広報という立場から、東京2020招致を支えたプロフェッショナル」

○第6回表彰式は、受賞者の功績をより広く社会に発信する機会と位置づけ、4月22日東京会館において、来賓、受賞関係者、報道機関など約100名の出席の下に開催しました。

(公4) 青少年健全育成事業

(YMF S ジュニアヨットスクール葉山の運営)

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小・中学生から高校生を対象とした通年型(4月から翌3月まで)ヨットスクールを神奈川県葉山町にて運営しています。

○今年度も、ジュニアヨットスクール葉山では、セーリング指導に加え、「自然・水辺体験学習」の機会を設けた総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する安全啓発や知識向上などを行いました。

○より充実したスクール運営をめざし、保護者の理解、協力や指導者との一体感を醸成するため、中間期及び3月には修了式と合わせて保護者会を開催し、スクールの活動報告や意見交換を行ないました。保護者からは1年間のカリキュラムを通じて、逞しさや自発性、協調性など子どもたちの意識、行動の変化を実感したとの感想や、子どもたちの成長に寄与した評価を得るなど一定の成果をあげることができました。

○更に、スクール受講による技能向上の成果確認と次期目標設定を目的に、本年3月に開催した、「第22回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」にスクール生4名が参加しました。

【ジュニアヨットスクール葉山 年間活動実績】

- | | | |
|-------------------------------|------------|-----------------------|
| ・ 平成25年度始業式 | 4月14日 | 葉山町漁業協同組合会館 |
| ・ 国際交流競技会2013 | 5月3～5日 | 石川県七尾市和倉温泉運動公園ヨットハーバー |
| ・ 体力測定 | 5月25日 | 逗子市体育館 |
| ・ 水辺の安全講習会 | 7月21日 | 葉山町漁業協同組合会館 |
| ・ 東日本OP級選手権大会 | 7月26～28日 | 葉山新港 |
| ・ 夏季合宿 | 7月31～8月4日 | 静岡県立三ヶ日青年の家 |
| ・ 外洋帆走訓練 | 8月23～25日 | 葉山マリーナ～伊豆大島 |
| ・ 保護者会 | 9月15日 | 葉山町漁業協同組合会館 |
| ・ 東京国体 | 9月28～10月2日 | 若洲海浜公園ヨット訓練所 |
| ・ 全日本OP級選手権大会 | 11月1～4日 | 愛知県海陽ヨットハーバー |
| ・ 体力測定 | 11月16日 | 逗子市体育館 |
| ・ 秋風ヨット大会 | 11月24日 | 江ノ島ヨットハーバー |
| ・ JSAFコース強化合宿 | 12月25～29日 | 和歌山ナショナルセーリングセンター |
| ・ ミッドウインターレガッタ | 2月8～9日 | 江ノ島ヨットハーバー |
| ・ 平成25年度修了式 | 3月9日 | 葉山町漁業協同組合会館 |
| ・ 第22回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」 | 3月21～23日 | 静岡県立三ヶ日青年の家 |

(全国児童 水辺の風景画コンテスト)

心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、未来を担う子どもたちが積極的に水辺に出かけ発見・体験したことを、子どもらしい素直な表現で自由に描くことを通して感性が育まれ、のびのびと成長するための一助となることを願って、水辺をテーマとした絵画コンテストを開催しています。

○第25回となる今年度は、7月1日から9月30日まで作品を募集し、47都道府県の保育園、幼稚園、小学校、絵画教室等853団体から9,842点(過去最高値)の作品が寄せられました。

○10月15日専門家による審査会(予選会)にて入選作品509点を選出したのに続き、10月24日専門家、後援省庁・団体の代表者による審査会(本選会)では、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞の各賞や審査員長賞を含め、入賞作品37点を決定しました。

○各大臣賞は、11月から12月に受賞者の在籍校等において表彰式を開催しました。また、入賞作品は当財団ホームページを通じて発表するとともに、ジャパンインターナショナルボートショー2014(パシフィコ横浜)にて展示紹介してきました。

※ 参考 別紙(3) 第25回「全国児童 水辺の風景画コンテスト」入賞者

(公5) 普及・振興事業 (スポーツ教材の提供)

スポーツの普及振興、裾野拡大を通じて、心身ともに健全な子どもたちの育成を支援することを目

的に、子どもたちが外で楽しく体を動かすきっかけとして教材を活用することで、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力向上に寄与するため、幼稚園、小学校、中学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等に対し、スポーツ教材を提供しています。

○今年度は4月15日から6月7日の間に、ホームページにて公募した結果、47都道府県1,131団体(過去最高値)から応募があり、6月21日に開催した抽選会を経て、東日本大震災被災地の小学校等57団体を含む177団体に対し、サッカーボール、またはタグラグビーセットを提供しました。

○とりわけ被災地支援については、施設損壊や住民避難、福島第一原発の放射能汚染などの影響により屋外活動制限が継続する中で、子どもたちの運動不足による体力低下など、教育現場の声や要望を個別に確認しつつ対応に努めました。

○提供先からは教材の活用報告を受け、スポーツ教材をより有効に活用している事例を当財団ホームページに掲載するなど、幼少期における運動の大切さを広く社会に啓発してきました。

※ 参考 別紙(4) スポーツ教材の提供先団体

(公6) 調査研究・教材製作・競技会等運営事業

(調査研究への取り組み)

当財団のこれまでの事業経験をもとに、スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究委員会を設置して活動し、その成果を広く社会に発信しています。

○今年度は、障害者競技スポーツに関する調査研究委員会の2年目の活動として、「我が国のパラリンピアンを取り巻くスポーツ環境調査」を実施しました。

①パラリンピアン(障害者競技スポーツ選手)のスポーツキャリアに関する調査

②パラリンピック指導者の現状に関する調査

③パラリンピック競技団体活動調査

○上記の調査結果については、平成25年度内に調査報告書を作成した上で、障害者競技スポーツの普及振興にかかわる関係者・団体等に配布すると共に、より広い社会活用に寄与するために、当財団ホームページを通じた情報開示を行いました。平成26年度は、本調査結果を含め、関係者はもとより、より広く社会で共有し、今後の改善施策等に活用されるようシンポジウム等情報発信の機会を設定していく予定です。

【調査研究委員会開催】

・第1回 調査研究委員会	5月14日	東京国際フォーラム
・ワーキンググループ(WG)合同会議	6月14日	東京国際フォーラム
・第2回 調査研究委員会	8月20日	東京国際フォーラム
・第3回 調査研究委員会	11月21日	東京国際フォーラム
・第4回 調査研究委員会	3月6日	東京国際フォーラム

【平成25年度 調査研究委員会 委員】 ※平成26年3月31日現在（順不同・敬称略）

役職	氏名	現職
担当理事	浅見 俊雄	東京大学・日本体育大学 名誉教授 (公財)日本サッカー協会 顧問
委員長	海老原 修	横浜国立大学 教育人間科学部 教授
委員	藤田 紀昭 (WG③リーダー)	同志社大学 スポーツ健康科学部 教授
委員	高橋 義雄 (WG②リーダー)	筑波大学 体育系 准教授
委員	齊藤 まゆみ (WG①リーダー)	筑波大学 体育系 准教授
委員	中森 邦男	(公財)日本障害者スポーツ協会 強化部長 日本パラリンピック委員会 事務局長
委員	澁谷 茂樹	(公財)笹川スポーツ財団 主任研究員
委員	岡本 純也	一橋大学大学院 商学研究科 准教授
委員	田中 暢子	桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツ健康政策学科 准教授
委員	河西 正博	神戸医療福祉大学 社会福祉学部 健康スポーツコミュニケーション学科 助教授
委員	難波 真理	天理大学 体育学部 天理スポーツ・オリンピック研究室 講師

(YMFSSスポーツ討論会の開催)

スポーツチャレンジ助成対象者、奨学生及びOB・OGを対象に、一人ひとりが視野を広く、視点を高く、思考を深くする機会を通じて、レベル向上や意識向上を促進すべく、「語り」「学び」「考える」をテーマとした「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」を3月に開催しています。

- 今年度は、第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにおいて、以下をテーマとする基調講演、特別講演会に加え、「チャレンジの意義」について考えるスポーツ討論会を開催し、参加者による活発な討論が行われました。
- 上記講演会や討論会の概要などを、スポーツにかかわる人たちの取り組みの参考情報として、また社会のスポーツへの理解促進を図るため、当財団ホームページ等に掲載し、広く社会に情報発信してきました。
- 第7回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでの講演、討論会のテーマ
 - ・ 基調講演 浅見俊雄氏 東京大学・日本体育大学名誉教授
演題:道に迷ったら、壁に当たったら
 - ・ スポーツ討論会 伊坂忠夫氏 立命館大学スポーツ健康科学部副学部長・教授
演題:「チャレンジする」ということ

- ・ 特別講演会 坂牧政彦氏 (株)電通

演題:東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定を受けて
～招致活動を通じて日本が伝えたかったこと～

(YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の開催)

心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習の成果を披露するとともに、選手や指導者同士の交流を通じて、全体的なレベルアップと技術向上に資するため、「YMFSセーリング・チャレンジカップ・IN 浜名湖」を開催しています。

- 今年度は第22回大会として、引き続き「独立行政法人日本スポーツ振興センター」の助成を受けて開催しました。(助成額 2,691千円)
- 3月21日から23日(3日間)に静岡県立三ヶ日青年の家を会場に、全国から18クラブ103名のジュニア・ユースセイラーと指導者、保護者が参加し、日頃鍛えた技術を競い合うとともに、全国の仲間との交流を深めました。
- 大会期間中には、GPS航跡データを活用した学習や、2004年アテネ五輪国際470級銅メダリスト轟賢二郎氏による技術指導、JOC専任メディカルスタッフ(日本セーリング連盟トレーナー)による勉強会を行うなど、参加者の更なるチャレンジと成長を支援するプログラムとして運営しました。

※ 参考 別紙(5) 第22回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」概要

(公7) 普及広報事業

(ホームページの充実と刊行物「Do the Challenge」等の発行)

当財団の活動をより広く社会に発信し、スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会活性に寄与するために、ホームページを通じて情報公開するとともに、各種刊行物の発行など広報活動の充実に努めています。

- 具体的には高い目標に向かって取り組む助成対象者のチャレンジの実像や、ジュニアヨットスクール葉山の活動、スポーツ教材の活用事例、全国児童 水辺の風景画コンテストの実施概要など元気で逞しい子どもたちの活動の様子。また、スポーツ討論会や講演会の概要、調査研究報告書、各種募集情報などを当財団ホームページやNews2uを通じて情報発信してきました。
- スポーツチャレンジ助成事業における、チャレンジャー(助成対象者)、OB・OG、審査委員、事務局を結ぶ会報誌として、「Do the Challenge」(刊行物 A4・4頁)を計3回(5・8・12月)発行し、相互に情報共有をするとともに、事業関係者に対する財団活動への理解促進を図りました。
- 今年度は新たな情報発信の取り組みとして、スポーツチャレンジ賞受賞者のチャレンジの足跡を紹介する「Back Stories」を作成し、より広く社会に情報発信を行ってきました。
また、ヤマハ発動機株式会社広報宣伝部の協力の得て、月刊誌「ウェッジ」にYMFSチャレンジャーOB・OGと柳社長の連載対談形式によるYMFS事業意義の理解促進を行ってきました。

○当財団事業の社会的な意義への理解促進や個別事業の円滑な運営を図るため、パンフレットや年間事業報告等の刊行物を発行・活用し、スポーツ関係団体や報道関係者などとのリレーションシップ構築を着実に進めています。

【事務報告】

■平成25年度 理事会、定時評議員会、評議員選定委員会

1. 理事会

(1) 第1回理事会（平成25年5月24日 東京国際フォーラム）

- 【決議事項】 ① 平成24年度事業報告承認の件
② 平成24年度計算書類等承認の件
③ 平成25年度定時評議員会招集の件
④ 評議員候補者推薦の件
⑤ 審査委員選任の件

- 【報告事項】 ① 第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングについて
② 第21回セーリング・チャレンジカップについて
③ 第5回スポーツチャレンジ賞について、その他

(2) 書面決議による理事会（決議日 平成25年7月12日）

- 【決議事項】 ① 基本財産の定め
② 資産運用規程改正の件
③ 評議員選定委員の選任の件

(3) 第2回理事会（平成25年10月25日 東京国際フォーラム）

- 【報告事項】 ① 平成25年度上半期事業報告
② 平成25年度下半期の主な活動と課題、予算実績・見通し他

(4) 第3回理事会（平成26年2月26日 東京国際フォーラム）

- 【決議事項】 ① 平成26年度事業計画承認の件
② 平成26年度収支予算承認の件
③ 規程一部改正および経理規程制定の件

- 【報告事項】 ① 平成25年度事業概況報告
② 平成25年度収支見通し報告他

2. 定時評議員会（平成25年6月21日 東京丸の内マイプラザ）

- 【決議事項】 ① 平成24年度計算書類等承認の件
② 定款変更の件
③ 監事選任の件

- 【報告事項】 ① 平成24年度事業報告
② 平成25年度事業計画報告、その他

3. 評議員選定委員会（平成25年6月21日 東京丸の内マイプラザ）

- 【議案】 ① 評議員選任の件

■評議員・理事・監事 ※平成26年3月31日現在(順不同・敬称略)

評議員 総数10名

役職	常・非常勤	氏名	現職
評議員	非常勤	岡崎 助一	公益財団法人 日本体育協会 専務理事 (元文部省競技スポーツ課長)
		塩谷 立	衆議院議員
		武井 一浩	弁護士
		戸田 邦司	一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会会長 (元運輸省海上技術安全局長)
		晝馬 明	浜松ホトニクス(株) 代表取締役社長
		柳澤 伯夫	城西国際大学学長(元衆議院議員)
		柳 弘之	ヤマハ発動機(株) 代表取締役社長
		遠藤 功	ヤマハ発動機(株) 監査役
		大坪 豊生	ヤマハ発動機(株) 顧問
		西山 正樹	ヤマハ発動機(株) 顧問 (元警察庁中部管区警察局長)

理事 総数12名

役職	常・非常勤	氏名	現職
理事長	非常勤	木村 隆昭	ヤマハ発動機(株) 代表取締役副社長
常務理事	常勤	杉本 典彦	公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 事務局長兼任
理事	非常勤	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
		伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部 教授(副学部長)
		伊藤 宏	公益財団法人 東京都体育協会 理事
		勝田 隆	筑波大学 客員教授(仙台大学 教授)
		定本 朋子	日本女子体育大学大学院研究科長 基礎体力研究所所長 教授
		佐藤 潤	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 マーケティング委員長
		田原 淳子	国士舘大学体育学部 教授
		西田 善夫	スポーツアナリスト(元 NHK 解説委員)
		柳 敏晴	神戸常盤大学口腔保健学科 教授
		橋本 義明	ヤマハ発動機(株) 取締役上席執行役員

監事 総数2名

役職	常・非常勤	氏名	現職
監事	非常勤	加山 秀剛	新日本有限責任監査法人 パートナー 公認会計士
		渡辺 政弥	ヤマハ発動機(株) 統合監査部 部長

参考 別紙(1) 平成25・26年度(第7・8期)助成対象者

<第7期 スポーツチャレンジ体験助成 対象者>

氏名(年齢)	競技種目/他	体験テーマ	所 属	出身地
基本助成				
うめの ゆり 梅野 裕理 (17)	スキー(障害者スポーツ)/選手	チェアスキー技術の向上とレーシング技能の強化 ー障害者アルペンスキーへの挑戦ー	啓明学院高等学校2年	兵庫県
こばやし ゆき 小林 由貴 (25)	スキー(クロスカントリー)/選手	クロスカントリースキー2014年ソチオリンピック出場・ 活躍のための競技力向上	岐阜日野自動車株式会社	新潟県
さとう まりの 佐藤 麻梨乃 (17)	陸上・棒高跳び(障害者スポーツ)/選手	第22回夏季デフリンピック 棒高跳びの部で 優勝と世界ろう者新記録	横須賀市立ろう学校 高等部2年	神奈川県
たなか こうたろう 田中 幸太郎 (22)	レスリング/選手	アマチュアレスリング競技におけるオリンピック 金メダルへの挑戦	早稲田大学4年	京都府
はねだ たくや 羽根田 卓也 (25)	カヌー(スラローム)/選手	カヌースラローム競技において、リオ五輪 およびその他国際大会でのメダル獲得への取り組み	コメニウス体育大学 (スロバキア)	愛知県
はらだ さよこ 原田 小夜子 (25)	セーリング/選手	夢へのチャレンジ～2016年リオ五輪セーリング競技 日本代表に向けて～	国立大学法人鹿屋体育大学 海洋スポーツセンター	長崎県
ひおき ちやこ 日置 千耶子 (28)	スキークロス/選手	スキークロス競技でソチ五輪、 W杯ランキングでTOP10を目指して	パートナーエージェント スキークラブ	鳥取県
やすだ よしたか 安田 好隆 (28)	サッカー/指導者	ポルトガルでの日本人指導者としての挑戦～大学院 出身のプロサッカー指導者という新たな道を拓く～	ポルト大学大学院 修士課程2年	東京都
継続助成				
たい さゆり 田井 小百合 (33)	陸上(障害者スポーツ)/選手	デフリンピック陸上競技 100m ハードルで金メダル獲得をめざす ー聴覚障がいの母の挑戦ー	佐世保市陸上競技協会	千葉県
たけはな こうたろう 竹花 康太郎 (26)	陸上・棒高跳び(障害者スポーツ)/選手・指導者	第22回夏季デフリンピック大会陸上競技・棒高跳びの部で金メダル獲得&世界ろうあ記録更新	横須賀市立ろう学校教諭	大阪府
ひらた あやね 平田 彩寧 (17)	ラグビー/選手	女子ラグビーでの五輪・WCP 出場に向けての強化 活動と女子ラグビーの普及	石見智翠館高等学校2年	静岡県

<第7期 スポーツチャレンジ研究助成 対象者>

氏名(年齢)	研究テーマ	所 属
基本助成		
あべ まさき 阿部 匡樹 (40)	共同力発揮課題における個々の貢献度の組織化:運動の最適化?それとも社会性の影響?	東京大学先端科学技術研究センター 認知科学分野 特任研究員
いしざわりえ 石澤 里枝 (26)	運動によるミトコンドリア生合成の亢進に対する中鎖脂肪酸の貢献 ～分子シグナルとしての新たな機能～	金沢大学大学院 自然科学研究科 生命科学専攻 博士課程2年
いわもと 岩本 えりか (27)	低酸素環境が運動時の血流パターンに与える影響 ー新たな運動処方プログラム作成を目指してー	札幌医科大学 保健医療学部 理学療法 学第二講座 助手 大学院博士課程3年

えがわけんいち 江川 賢一 (41)	住民協働によるスポーツ推進計画に基づく健康なまちづくり ースポーツ実施率増加プロセスに関する実証研究ー	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 博士課程 1年
おがさわら りき 小笠原 理紀 (28)	トレーニング効果の停滞に関与する因子とメカニズムの解明	立命館大学 総合科学技術研究機構 ポストドクトラルフェロー
たけむら よしあき 竹村 嘉晃 (41)	ヨーガの健康・社会的機能の解明と大学教育への導入促進ー日・印・米の比較 を通して	国立民族学博物館 大学共同利用機関 外来研究員
てらだ しん 寺田 新 (37)	エビジェネティクス理論を活用した運動による抗糖尿病効果を増強する方法の 開発	東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系 身体運動科学研究室 准教授
はせがわ ゆみこ 長谷川 弓子 (36)	ゴルフに心理的距離は存在するか	中京大学大学院 体育学研究科 スポーツ認知・行動科学系 博士課程 4年
ひがしだ かずひこ 東田 一彦 (29)	持久的パフォーマンス向上を目的とした筋内脂肪の形成・分解の分子機構の 解明	立命館大学 総合科学技術研究機構 ポストドクトラルフェロー
ふくはら かずのぶ 福原 和伸 (33)	球技スポーツ選手の予測技能獲得に向けたバーチャルヒトモデルの構築	首都大学東京 人間健康科学研究科 助教
まつしま つよし 松島 剛史 (31)	グローバル化過程におけるラグビー文化の統治に関する歴史社会学的研究	立命館大学大学院 社会学研究科 研究生
わかばやし ひとし 若林 斉 (34)	現代の子どもの生活運動習慣が体温概リズムおよび発育・発達に及ぼす影響 の検討	千葉工業大学 工学部教育センター 助教
継続助成		
せと くにひろ 瀬戸 邦弘 (40)	アジア共通のスポーツ文化である民俗綱引きを通して、地域の共通性を確認し、 国際理解・友好を深める。	上智大学 文学部 保健体育研究室 常勤嘱託講師

<第8期 スポーツチャレンジ体験助成 対象者>

氏名(年齢)	競技種目/他	体験テーマ	所 属	出身地
基本助成				
あしだ はじめ 芦田 創 (20)	陸上・短距離種目(障害 者スポーツ)/選手	短距離種目でのリオデジネイロ・パラリンピックへの 出場、そして東京へ	早稲田大学	大阪府
うちやま まさたか 内山 雅貴 (18)	自転車レース(ロードレー ス)/選手	東京オリンピック自転車ロードレースでのメダル獲得 に向けた欧州 UCI レースへの挑戦	静岡県立浜松東高等学校	静岡県
おおかわはる 大川 晴 (23)	アルティメット/指導者	コンゴ民主共和国での日本人アルティメット代表監 督の挑戦 ～2016年世界大会に向けて～	慶應義塾大学、コンゴ民主主義 共和国フライングディスク協会	東京都
おぎはら みやこ 荻原 京 (18)	スキー(フリースタイル・モ ーグル)/選手	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックをめざして ～フリースタイルスキー・モーグル種目～	長野県立野沢北高等学校	長野県
かみしたと む 神下 豊夢 (23)	陸上・砲丸投げ(障害者 スポーツ)/選手	「F46 クラス男子砲丸投げ」の動作分析研究を通して 2016年パラリンピック出場をめざす	大阪体育大学	大阪府
ささき はるな 佐々木 陽菜 (17)	フェンシング(サーブル) /選手	東京オリンピックでのメダル獲得をめざす ～フェンシング サーブル～	福島成蹊高等学校	福島県

たけうち あいな 竹内 愛菜 (22)	アイスホッケー／選手	アイスホッケー北米大学リーグへの挑戦 平昌オリンピックへの出場および上位入賞	北海道教育大学	北海道
たなか やすひろ 田中 康大 (24)	水泳(障害者スポーツ)／ 選手	頑張った結果は報われる ～2016 年リオ・パラリンピック 100m平泳ぎで再び表彰台の感動を～	—	千葉県
ふじた たくや 藤田 拓哉 (19)	モーターサイクルレース (ロードレース)／選手	モーターサイクルロードレースにおける世界グランプリ日本人チャンピオンへの挑戦	DOG FIGHT RACING	千葉県
みうら ゆうき 三浦 優希 (17)	アイスホッケー／選手	常にエキストラリーグで活躍する選手となり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪に導く	早稲田実業学校高等部	東京都
やなおか 柳岡 はるか (18)	フェンシング(フルーレ) ／選手	2016・2020 年のオリンピックでフェンシング日本人女子選手として初の金メダル獲得	法政大学	東京都
継続助成				
こばやし ゆき 小林 由貴 (26)	スキー(クロスカントリー) ／選手	平昌オリンピックでのメダル獲得～クロスカントリー王国ノルウェーのクラブチームからの挑戦～	岐阜日野自動車	新潟県
さとう まりの 佐藤 麻梨乃 (18)	陸上・棒高跳び(障害者 スポーツ)／選手	日本学生陸上競技対校選手権大会で 女子聴覚障害者初の棒高跳び入賞をめざして	横須賀市立ろう学校	神奈川県
たなか こうたろう 田中 幸太郎 (23)	レスリング(フリースタイ ル)／選手	オリンピック金メダルへの挑戦 ～レスリング フリースタイル～	阪神酒販	京都府

<第8期スポーツチャレンジ研究助成 対象者>

氏名(年齢)	研究テーマ	所 属
基本助成		
うちだ まさたか 内田 昌孝 (28)	腸内細菌叢調節機構を介したメタボリックシンドローム発症に及ぼす自発的運動習慣の効果	川崎医療福祉大学大学院 医療技術研究科 健康科学専攻
うちだ わかき 内田 若希 (35)	障害のあるトップアスリートの自己変容に及ぼすスポーツドラマチック体験の影響	九州大学大学院 人間環境学研究院
えしま ひろあき 江島 弘晃 (26)	筋細胞内のカルシウムイオン調節によるミトコンドリアの役割	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 先進理工学専攻
おおばやし たろう 大 林 太朗 (25)	スポーツ史からみた関東大震災(1923年)と「復興公園」の歴史的意義	筑波大学 人間総合科学研究科 体育科学専攻
きたおか ゆう 北岡 祐 (30)	エネルギー基質としての乳酸	東京大学大学院 総合文化研究科
しょうじ ひろと 庄子 博人 (31)	スポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」 ～スタジアムにおける新たなビジネスモデルの検討～	大阪成蹊大学 マネジメント学部
つたき あらた 蔦木 新 (29)	低周波数電気刺激誘因性筋タンパク質合成は MAPK 経路を介するか?	日本体育大学大学院 体育科学研究科
つちや よしふみ 土屋 吉史 (26)	電気刺激で誘発した筋収縮が骨格筋由来の新規生理活性物質「Irisin」の分泌に及ぼす影響	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
にしまさき みお 西牧 未央	異なる急速減量の期間が生体内の酸化ストレス応答に及ぼす影響について	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科

(26)	～レスラーの健康を考える～	
ひらやま くにあき 平山 邦明 (31)	プライオメトリックトレーニングによるパワー発揮能力向上のメカニズムの解明	早稲田大学 スポーツ科学学術院
ふじい けいすけ 藤井 慶輔 (27)	相手がいる状況においてバスケットボール選手が素早く動き出すメカニズムの解明	名古屋大学 総合保健体育科学センター
まかなえ ゆうへい 蒔苗 裕平 (28)	活性酸素種は運動効果を増強するか？	立命館大学 立命館グローバルイノベーション機構
継続助成		
ふぐたに あつき 福谷 充輝 (31)	なぜ反動によって身体運動パフォーマンスが増強するのか？ —反動による筋力増強機序の個別抽出による検証—	立命館大学 総合科学技術研究機構
せとくにひろ 瀬戸 邦弘 (41)	世界に広がる綱引き文化の動態研究 —民族綱引き文化の世界地図作成を目指して—	上智大学 文学部保健体育研究室

参考 別紙(2) 平成25・26年度(第7・8期)国際スポーツ奨学金対象者

<第7期 国際スポーツ奨学金 対象者>

氏名(年齢)	留学国/留学先校	留学テーマ	所 属
海外留学生奨学金			
ごんじょう ともひろ 言上 智洋 (25)	イギリス/The University of Edinburgh	いかにしたら速く泳げるか? —動作解析研究から、最速の泳技術を探求する—	イギリス/The University of Edinburgh大学院 博士課程1年
外国人留学生奨学金			
かく ようしゅう 郭 叶舟 (27)	中国	中国における障害者水泳の現状と課題 —日本の障害者水泳との比較を通して—	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修士課程1年

<第8期 国際スポーツ奨学金 対象者>

氏名(年齢)	留学国	留学テーマ	所属
海外留学生			
さくた あすか 作田 飛鳥 (25)	アメリカ	ソマティックのスポーツ生理学的アプローチを取り入れた舞 踏訓練法の体系化と確立	早稲田大学大学院
外国人留学生			
サヤラット ポンナリー (26)	ラオス	ラオスのスポーツ・学校体育の現状について —運動有能感の視点から—	奈良教育大学大学院
ソン ボギョン (25)	韓国	水泳におけるパフォーマンス向上に有効な試合前のコンディ ションの自己調整法の開発	筑波大学大学院
フィゲロア ゴンザレス イボリト ラファエル (34)	メキシコ	後期高齢者用のADL(日常生活動作)年齢算出式の開発	筑波大学大学院

参考 別紙(3) 第25回 全国児童 水辺の風景画コンテスト 入賞者

■文部科学大臣賞

- 【受賞者】 掛川 瑞生(かけがわ みずき) 小3
 【作品名】 「楽しかったよ。千曲川ではじめてのニジマス祭り」
 【表彰日・会場】 2013年12月5日(木) 長野県小諸市立野岸小学校 体育館
 【贈呈者】 (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 事務局長 杉本 典彦

■国土交通大臣賞

- 【受賞者】 斉藤 湖瑚(さいとう ここ) 小3
 【作品名】 「よみがえれ! オアシス」
 【表彰日・会場】 2013年12月11日(水) 青森県むつ市立二枚橋小学校 体育館
 【贈呈者】 東北地方整備局 青森港湾事務所 所長 伊藤 達也 様

■環境大臣賞

- 【受賞者】 竹見 咲紀(たけみ さき) 小3
 【作品名】 「頑張れ海ガメ」
 【表彰日・会場】 2013年12月9日(月) 神奈川県平塚市立真土小学校 校長室
 【贈呈者】 平塚市立真土小学校 磯部 博之 校長

■農林水産大臣賞

- 【受賞者】 吉岡 楓矢(よしおか ふうや) 小5
 【作品名】 「修繕中」
 【表彰日・会場】 2013年11月25日(月) 兵庫県明石市立二見西小学校 体育館
 【贈呈者】 審査員長 工藤 和男 画伯

■特別賞(6点)

部門	氏名	学年(年齢)	作品名	所属
審査員長賞	たけ 武 周吾	5年(10)	カニをもつぼく	徳島市立内町小学校
日本マリン事業協会会長賞	にのみや 二宮 ひろき 広樹	5年(10)	初めて釣ったぞ～!	兵庫県伊丹市立南小学校
日本ユネスコ協会連盟賞	おおくぼ えりか 大久保 恵理佳	5年(11)	ウグイが住むきれいな川	栃木県那須町立黒田原小学校
日本マリーナ・ビーチ協会会長賞	おちあい 落合 あすみ 明純	5年(11)	私の夏	川崎市立東小田小学校
ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞	おぼら 小原 いっけい 一敬	3年(9)	大ものつれたぞ	神奈川県 南さつま市立加世田小学校
ヤマハ発動機賞	てらにし 寺西 つかさ 宰	6年(11)	水草アフロヘア仲間だ!	鳥取県八頭町立船岡小学校

■優秀賞(27点)

部門	氏名	学年(年齢)	作品名	居住地	所属
金賞	伊藤 勇人	年長(6)	チョコキン!カニさん	広島県三次市	三次中央幼稚園
	田代 瑛大	年長(6)	海のマンション	栃木県塩谷郡高根沢町	社会福祉法人誠和会ひまわり保育園
	日下 菜那	年長(6)	さかなとりのふね	徳島県徳島市	名東保育所
	鎌田 としこ	1年(6)	うみにもぐったら	徳島県吉野川市	鳴門教育大学附属小学校
	千葉 丈寛	3年(8)	夕ぐれの川遊び	東京都練馬区	練馬区立富士見台小学校
	谷口 智哉	3年(9)	サンゴの海で魚といっしょにあそぼう	静岡県磐田市	磐田市立田原小学校
	平野 匠之助	4年(9)	海からの贈り物	高知県高知市	高知市立高須小学校
	矢部 優花	6年(11)	楽しい浜辺	徳島県阿波市	阿波市立八幡小学校
	福留 明日香	6年(12)	どろめの港 赤岡	高知県高知市	高知市立大津小学校
銀賞	菊池 優里菜	年中(4)	たからもの	栃木県矢板市	認定こども園すみれ幼稚園
	住田 清良	年長(5)	すもう大会優勝	奈良県香芝市	香芝市立ハルナ幼稚園
	小川 翔	年長(6)	シャチ!!	福岡県太宰府市	水城保育園
	蛭田 康太郎	1年(6)	海の世界	神奈川県三浦市	三浦市立南下浦小学校
	鈴木 梨夏子	2年(7)	大海原に向かって	東京都練馬区	練馬区立高松小学校
	フアンドリッチ グレース幸	3年(9)	初めての”つり”	東京都調布市	調布市立若葉小学校
	青嶋 哲也	4年(9)	大きなジンベイザメ	静岡県磐田市	磐田市立青城小学校
	齋藤 愛	5年(10)	どろめ漁	高知県高知市	高知大学教育学部附属小学校
	辻 大輝	6年(12)	生きる海	和歌山県西牟婁郡白浜町	白浜町立白浜第一小学校
銅賞	菅野 雅人	年中(4)	カサゴのムレ	山形県上市市	社会福祉法人育子会子供の城保育園
	徳永 煌輝	年中(5)	おさかないっばい	徳島県三好市	社会福祉法人徳育会大泉保育園
	大村 麻緒	年長(5)	ざりがにみつけた!!	香川県高松市	社会福祉法人和光保育園
	石川 由依	2年(8)	南の海の仲間たち	東京都練馬区	練馬区立富士見台小学校
	神山 遼	3年(9)	宮島	奈良県奈良市	近畿大学附属小学校
	東 俊輝	3年(9)	ドロメのみなど	高知県高知市	高知大学教育学部附属小学校
	藤原 大輔	4年(10)	アジのむれ	兵庫県加西市	加西市立北条東小学校
	手塚 悟	6年(11)	水難救助訓練(横浜市)	神奈川県足柄上郡中井町	中井町立中村小学校
	前之園 雄人	6年	桜島と高速船	鹿児島県熊毛郡屋久島町	屋久島町立宮浦小学校

参考 別紙(4) スポーツ教材の提供先団体

都道府県	市区町村	団体名	提供教材
北海道	上川郡当麻町	当麻フットボールクラブ	サッカー5号球
	札幌市	札幌市立東山小学校	タグラグビーセット
		札幌市立常盤小学校	タグラグビーセット
		札幌市立手稲山口小学校	タグラグビーセット
岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	金ヶ崎町立三ヶ尻小学校	タグラグビーセット
宮城県	角田市	角田市立北郷小学校	タグラグビーセット
	白石市	白石市白川保育園	サッカー3号球
	加美郡色麻町	ブライトリーFCスポーツ少年団	サッカー4号球
秋田県	横手市	横手市立醍醐小学校	タグラグビーセット
		横手市立黒川小学校	タグラグビーセット
山形県	山形市	山形市立鈴川小学校	タグラグビーセット
		山形市立第三小学校	タグラグビーセット
	最上郡金山町	最上郡金山町立有屋小学校	タグラグビーセット
福島県	福島市	福島市笹谷保育所	サッカー3号球
	相馬郡新地町	相馬郡新地町駒ヶ嶺小学校	サッカー4号球
	二本松市	二本松市立大平小学校	サッカー4号球
	喜多方市	喜多方市立慶徳小学校	サッカー4号球
茨城県	北茨城市	北茨城市立華川中学校	サッカー5号球
	守谷市	守谷市立松前台小学校	タグラグビーセット
	古河市	力善柔道クラブ	タグラグビーセット
	土浦市	土浦市立荒川沖小学校	タグラグビーセット
	つくば市	茨城県立つくば特別支援学校	タグラグビーセット
	東茨城郡大洗町	夢town大洗スポーツクラブ	タグラグビーセット
群馬県	邑楽郡千代田町	千代田ジュニアレスリングクラブ	サッカー5号球
埼玉県	戸田市	戸田市立美谷本小学校	タグラグビーセット
	越谷市	越谷市立明正小学校	タグラグビーセット
	さいたま市	しんせい幼稚園	サッカー3号球
	新座市	かきの木幼稚園	タグラグビーセット
	吉川市	学校法人ワタナベ学園 越谷保育専門学校附属吉川幼稚園	サッカー3号球
千葉県	八街市	社会福祉法人東京都社会福祉事業団 東京都八街学園	タグラグビーセット
	旭市	旭市立古城小学校	タグラグビーセット
	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市立五本松小学校	サッカー4号球
	佐倉市	佐倉市立佐倉東小学校	タグラグビーセット
東京都	北区	社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム	サッカー4号球
	新宿区	新宿区立落合第二小学校	タグラグビーセット

	葛飾区	葛飾区立木根川小学校	タグラグビーセット
		葛飾区立住吉小学校	タグラグビーセット
		葛飾区立中青戸小学校	タグラグビーセット
	昭島市	双葉園	タグラグビーセット
神奈川県	横浜市栄区	青空court(体動かし隊!)	サッカー3号球
	横浜市瀬谷区	原フットボールクラブ	サッカー4号球
	横須賀市	神奈川県立武山養護学校	サッカー3号球
		横須賀市立大楠中学校	サッカー5号球
	川崎市麻生区	神奈川県立麻生養護学校	タグラグビーセット
	三浦郡葉山町	葉山町立葉山小学校	サッカー4号球
	藤沢市	藤沢市立鶴洋小学校	サッカー4号球
相模原市中央区	学校法人藤栄学園よこやま幼稚園	サッカー3号球	
新潟県	十日町市	十日町市立飛渡第一小学校	タグラグビーセット
	柏崎市	柏崎市立田尻小学校	サッカー4号球
	三条市	三条市立笹岡小学校	サッカー4号球
富山県	高岡市	高岡第一学園附属第五幼稚園	サッカー3号球
	射水市	NPO法人しもむらスポーツクラブまいけ	タグラグビーセット
石川県	加賀市	社会福祉法人 伊奈美園	サッカー4号球
福井県	福井市	ふくいスポーツクラブ	タグラグビーセット
山梨県	大月市	山梨県立やまびこ支援学校	タグラグビーセット
岐阜県	山県市	学校法人春日学園はなぞの北幼稚園	サッカー3号球
	岐阜市	児童養護施設 日本児童育成園	サッカー5号球
静岡県	磐田市	磐田市立豊田中学校	タグラグビーセット
愛知県	豊橋市	豊橋市立向山小学校	タグラグビーセット
		豊橋市立中部中学校	サッカー5号球
		愛知県立豊橋豊学校	タグラグビーセット
	高浜市	高浜市立港小学校	タグラグビーセット
	刈谷市	学校法人名古屋カトリック学園 暁星幼稚園	サッカー3号球
三重県	津市	鈴鹿市ラグビーフットボール協会	タグラグビーセット
滋賀県	守山市	守山市立吉身小学校	タグラグビーセット
	東近江市	東近江市立能登川西小学校	タグラグビーセット
京都府	京都市伏見区	学校法人睦美学園 睦美幼稚園	サッカー3号球
大阪府	高槻市	高槻市立第二中学校	サッカー5号球
	豊中市	大阪府立豊中支援学校	タグラグビーセット
	大阪市淀川区	大阪市立新高幼稚園	タグラグビーセット
		大阪市立三国中学校	サッカー5号球
	大阪市東住吉区	大阪市立矢田西小学校	タグラグビーセット
	泉南市	泉南市立鳴滝小学校	タグラグビーセット

	泉大津市	泉大津市立上條小学校	タグラグビーセット
	吹田市	大阪市立弘済小学校	サッカー4号球
兵庫県	赤穂市	赤穂市スポーツ少年団	サッカー4号球
	神戸市兵庫区	社会福祉法人 共生会 愛信学園	サッカー4号球
	西宮市	善照学園	サッカー4号球
	姫路市広畑区	社会福祉法人あいむ アメニティホーム 広畑学園	サッカー4号球
	尼崎市	社会福祉法人 神戸婦人同情会 子供の家	サッカー4号球
奈良県	奈良市	社会福祉法人優憲福祉会あやめ池保育園	タグラグビーセット
	北葛城郡上牧町	学校法人天美学園	サッカー3号球
和歌山県	和歌山市	学校法人光明学園 たから幼稚園	サッカー3号球
		和歌山市立福島小学校	タグラグビーセット
鳥取県	鳥取市	学校法人小さき花園幼稚園	サッカー3号球
	米子市	社会福祉法人ひばり保育会	サッカー3号球
		米子市立箕蚊屋小学校	サッカー4号球
島根県	浜田市	NPO法人浜田フットサルクラブ	タグラグビーセット
岡山県	岡山市中区	社会福祉法人備作恵済会若松園	サッカー4号球
	倉敷市	特定非営利活動法人スポーツライフ '91天城	タグラグビーセット
	加賀郡吉備中央町	吉備中央町立円城小学校	タグラグビーセット
広島県	安芸高田市	社会福祉法人愛心会 可愛保育園	サッカー3号球
山口県	山陽小野田市	山陽小野田市立埴生幼稚園	サッカー3号球
	長門市	長門市立俵山小学校	サッカー4号球
	下関市	下関市立熊野小学校	タグラグビーセット
香川県	観音寺市	一ノ谷スポーツクラブ	サッカー5号球
	坂出市	SFC坂出	サッカー4号球
愛媛県	西条市	西条市立三芳小学校	タグラグビーセット
		西条市立西条小学校	サッカー4号球
高知県	高知市	高知市立第六小学校	タグラグビーセット
福岡県	八女市	八女市立南中学校サッカー部	サッカー5号球
	豊前市	黒土少年サッカークラブ	サッカー4号球
	大牟田市	サマードラゴン	サッカー4号球
佐賀県	伊万里市	伊万里市立東山代小学校	タグラグビーセット
長崎県	西海市	西海市総合型地域スポーツクラブ大瀬戸アスリートクラブ	タグラグビーセット
	五島市	五島市立福江中学校	サッカー5号球
	壱岐市	壱岐市立田河小学校	タグラグビーセット
	南島原市	南島原市立野田小学校	サッカー4号球
熊本県	宇城市	宇城市立豊野中学校	タグラグビーセット
	宇土市	NPO法人うとスポーツクラブ	タグラグビーセット
大分県	中津市	中津市立今津小学校	タグラグビーセット

	由布市	ゆふいんチャレンジクラブ	タグラグビーセット
宮崎県	延岡市	尚学館小学校	タグラグビーセット
	西臼杵郡五ヶ瀬町	五ヶ瀬町立上組小学校	タグラグビーセット
	西臼杵郡高千穂町	高千穂町立田原小学校「スポーツクラブ」	サッカー4号球
	北諸県郡三股町	学校法人相愛学園認定こども園第一幼稚園	サッカー3号球
沖縄県	宜野湾市	沖縄病院あゆみ保育園	サッカー3号球
	島尻郡与那原町	与那原スポーツ保育園	サッカー3号球
	島尻郡伊平屋村	伊平屋村立伊平屋中学校	サッカー5号球
	石垣市	石垣市立明石小学校	タグラグビーセット

参考 別紙(5) 第22回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖 大会概要

- ・大会名 第22回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖
- ・期 間 平成26年3月21日(金)～23日(日)
- ・会 場 静岡県立三ヶ日青年の家
- ・主催／共同主催 (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)、NPO法人 静岡県セーリング連盟
- ・公 認 (公財)日本セーリング連盟
- ・運営協力 NPO法人 静岡県セーリング連盟
- ・協 賛 大塚製薬株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社ワイズギア、株式会社舵社、株式会社ヤマハトラベルサービス、株式会社ノースセールジャパン
- ・後 援 文部科学省、(公財)日本体育協会、静岡県、静岡県教育委員会、(公財)静岡県体育協会、浜松市、浜松市教育委員会、(財)浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社、静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK静岡放送局浜松支局、静岡第一テレビ、K-MIX、浜松FM放送、(公社)日本ジュニアヨット連盟、日本シーホッパー協会、日本FJ協会、日本オブティミスト協会、ミニホッパー協会
- ・協 力 静岡県立三ヶ日青年の家、ウォーターセーフティニッポン遠州ネット、静岡県立三ヶ日青年の家ヨットリーダーズクラブ、
- ・対象種目 OP級、ミニホッパー級、シーホッパー級SR、FJ級
- ・参加クラブ 合計18団体 103名

団体名	参加者数
清水ヨットスポーツ少年団	1
静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3
なごやジュニアヨットクラブ	2
愛知県立蒲郡東高等学校 ヨット部	5
千葉市立稲毛高等学校および附属中学校	14
宮津ジュニアヨットクラブ	1
海陽海洋クラブ	7
福島県セーリング連盟	6
B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	2
山中湖中学校 ヨット部	1
YMFSジュニアヨットスクール葉山	4
碧南セーリングクラブ	24
湖山池ドリームジュニア	2
静岡県立熱海高等学校ヨット部	4
丸玉セーリングクラブ	2
静岡県立相良高等学校ヨット部	18
レーザー光フリート	2
B&G高松海洋ヨットクラブ	5